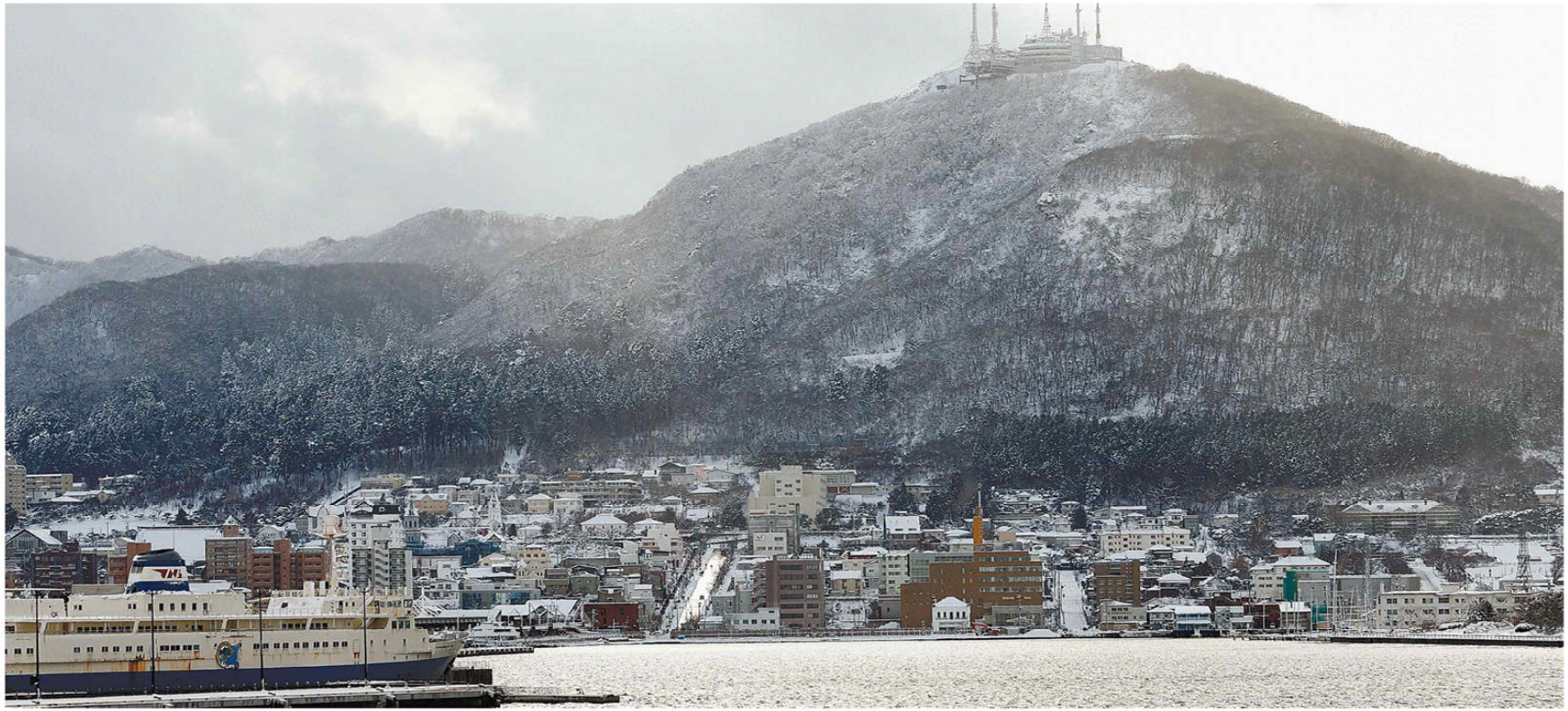
年　組　名前

道新でワークシート

# 函館 開港１６０年

## 世界に開く扉 再び

2019年1月1日朝刊道南別刷第5部みなみ風特集（記事は一部編集しています）



１６０年前を境に、多くの民族や文化を包容してきた函館港。函館山の麓に立ち並ぶ教会群や和洋折衷の民家とともに、港は姿を変えながら時を重ねてきた＝２０１８年１２月（桶谷駿矢撮影）

1859年(安政6年)の開港から160年。今年節目を迎えた函館港の盛衰を、函館山山麓に寄り添う白壁の民家や寺、神社、歴史的建造物の教会群などが見つめ続けてきた。

「見下ろすように建つ建物と、そこに暮らす人、訪れる人を含めた『まち』全体で港を見守っている」。道内最古の神社とされ、函館市元町地区で800年以上前から海の安全を祈ってきた船魂(ふなたま)神社の宮司杉山佳成さん(79)は、胸の内を吐露した。

杉山さんが宮司になった1986年以降、函館港の活気は下降線をたどった。船の出港時に続けた安全祈願の「祝い」のおはらいは、88年の青函連絡船廃止や91年の北洋漁業終えんを経て、廃船、解体時の「お別れ」に変わった。「来る日も来る日も船の最後を見守った」という。

函館港は船が行き交うにぎわいを、新興の苫小牧港や石狩湾新港に譲る一方、観光名所の金森赤レンガ倉庫が開業し、青函連絡船摩周丸が記念館として保存された。昭和初期の大火を受けて始まった復興のシンボル「函館港まつり」が盛大に続き、「はこだてクリスマスファンタジー」も始まった。まちは商業や観光を土台に、港を支えてきた。

杉山さんは港を見守るまちの声を代弁するように「もう一度、船でにぎわう函館港を見たい。港が世界とつながる玄関になってほしい」と話す。その願いを港はどう受け止めるのか。

整備中の函館港若松埠頭(ふとう)に今年初めて、クルーズ船が接岸する。函館の中心部にあふれ出す数千人もの国内外の観光客―。二百数十年に及ぶ鎖国に終わりを告げた港は再び、世界への扉を大きく開こうとしている。

**函館港統計(2017年度実績)**

| | |
|---|---|
| 地勢 | 北緯41度47分、東経140度42分 |
| 港湾区域内水面積 | 2292.7313㌶ |
| 係留岸壁延長 | 8789㍍ |
| 入港船舶数 | 1万2458隻 |
| 入港船舶㌧数 | 4265万6627㌧ |
| 船舶乗降人員 | 51万2337人 |
| 取扱貨物量 | 3303万4887㌧ |

年　　組　　名前

道新でワークシート

①記事中の写真にある港と山の名前をそれぞれ答えましょう。

山の名前：　　港の名前：

②【　　】に当てはまる言葉を、記事中からさがして書きましょう。

a．日本風と西洋風の様式を取り入れること　【　　】

b．１９８８年まで青森と函館をつないだ乗り物　【　　】

c．２０１７年度に函館港に入港した船の数　【　　】

d．函館の大火の復興（ふっこう）のシンボルとして始まったイベント

【　　】